

大雨のとき、どのように避難するの？

自宅の外への避難

注目!!



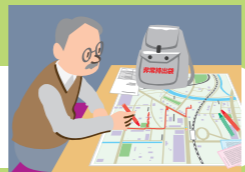
日ごろしておくこと

自宅周辺の災害危険性を把握しておきましょう

洪水や土砂災害が起きたときに、自宅が倒壊したり、深く浸水したりする危険性がないかを把握し、自宅の外へ避難する必要があるのかを確認しておきましょう。

避難先・経路・方法を確認しておきましょう

安全な避難先と避難経路を家族や地域で確認しておきましょう。また、徒歩で避難することが基本です。



非常持出品の準備をしておきましょう

非常持出品リストは **38** ページ

自宅の中での避難

屋内安全確保をするために日頃から備蓄をしておきましょう。ハザードマップを見て、浸水深よりも自宅が高いか確認しましょう。

家庭内備蓄品リストは **38** ページ

大雨が降りそうになったら

情報を収集して避難判断をしましょう

06 ページ 情報の収集は

阪南市からの防災情報

避難指示などに注意を!



05 ページ 避難判断の目安は



携帯電話

ラジオ

テレビ

パソコン

雨量・河川水位情報などの収集!



避難するとき

ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前にご近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。

自主防災組織に参加しよう! P33 ぐらしの安心ダイヤル事業 P37



注意して避難しましょう

動きやすい服装で、必要最小限の荷物で、避難しましょう。

非常持出品・家庭内備蓄品リスト……P38



河川や水路などには、近寄らないようにしましょう。



やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

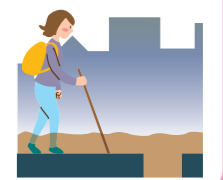
長靴はぬげる可能性があるのなるべく運動靴にしましょう。



水の中の障害物に注意しましょう。



マンホールに気づかず吸い込まれてしまう場合があります。危険ですので、注意しましょう。



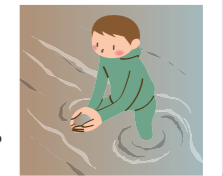
高齢者や身体の不自由な人などの手助けをしましょう。



幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。



氾濫による水は汚水が混ざっているため、むやみにさわらないようにしましょう。



車は約30cmの浸水深で走行困難になります。



人が歩ける深さの目安は50cmから70cmくらいです。※水の流速によっては歩けない場合があります。



危険な場所には近寄らないようにしましょう。



避難所では

避難所では互いに気を遣いましょう

避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することになります。高齢者や障がい者、乳幼児を抱えた方などへの気配りを心がけましょう。また、できる限りの感染症対策を行いましょう。

災害時の感染症対策……P38



- 飼い主さんが無事であること 災害時、ペットを守るのは飼い主さんだけです。まずはご自身の安全を確保しましょう。
- 一緒に避難すること(同行避難)
- 避難は「自助」が基本です 飼い主さんは避難所でのルールに従って、飼い主さんの責任でお世話しましょう。

ペットの飼い主の方へ

共通編

風水害編

地震災害編

日ごろからの備え